

# 元気

## まち物語

2013.4



### 金子みすゞ・雅輔の会

金子みすゞの世界

「みんなちがってみんないい」。この詩に聞き覚えはありませんか。金子みすゞの詩「私と小鳥と鈴と」の有名な一節です。

下関を代表する童謡詩人・金子みすゞと、その弟で劇団「若草創設」・作詞家・作曲家である上山雅輔。二人を顕彰しているのが「金子みすゞ・雅輔の会」の皆さんです。

**金子みすゞ**（本名テル）  
明治36年、山口県大津郡仙崎村（現在の長門市仙崎）に生まれる。母の再婚を機に20歳の時に下関に移り住み、詩作・投稿に励む。結婚して娘を授かるが、26歳で自殺。

**上山雅輔**（本名上山正祐）

明治38年、みすゞの弟として誕生。1歳11カ月で叔母の嫁ぎ先、上山松蔵の養子となる。雑誌編集を経て、脚本家、劇団主宰などを勤める傍ら、40を超える作詞・作曲を残した。

### みすゞと雅輔に魅せられて

会は平成18年6月に発足、会員は87人です。みすゞの作品を収集していた方が、平成11年から旧秋田商会ビル（下関観光情報センター）で常設展示を始めたことから、会へと発展しました。後に会員の石川さんが収集していた雅輔のレコードも一緒に展示し始め、現在は「金子みすゞ 上山雅輔姉弟のへや」として二人の作品などを紹介しています。

活動は、展示の入れ替えや命日に行う催し、観光案内の他、現在は長門市・下関市が共同で「みすゞ交流プロジェクト」を行っていきます。両市の観光ボランティアが交流会を開き、ガイドの質を高めるなどして交流を深めています。

### 詩が生まれたまち・下関

3月10日のみすゞの命日に献花と朗読会が行われました。訪れた人々は、詩「日の光」が刻まれた石碑（カラトピア横）の前に花を添えてみすゞをしのびました。巨大絵本を使った朗読会では、小学生が元気いっぱい10編のみすゞの詩を

読み、「やさしい気持ちが伝わった」など、それぞれに何かを感じたようです。

「詩が生まれたまちを誇りに思い、若い世代にも希望を持ってほしい」と情熱を持って話してくれたのは、会長の島村涼華さんです。実は、みすゞが書いた512編もの詩は全て下関の唐戸近辺で書かれたもので、下関が当時、創作意欲をかき立てられる街だったことがうかがえます。「唐戸にもう一度その活気を」との思いから、みすゞの魅力を伝えるべく活動しています。「詩からだけでなく、みすゞ自身の生き方から学ぶこと、考えさせられることがたくさんある」と島村さん。みすゞの思いを継ぐ会員の力が、下関に広がります。

★一緒に活動しませんか★  
事務局 ☎090-9460-8525

- ①朗読会で「私と小鳥と鈴と」を朗読する兄妹。
- ②北九州市の語り部の会から譲り受けた巨大絵本。量4畳分の大きさです！
- ③「日の光」の石碑の横で献花をする会長の島村さん。
- ④朗読をした小学生と会の皆さん。上段左から2番目が石川さん。
- ⑤旧秋田商会ビルの「金子みすゞ 雅輔姉弟のへや」
- ⑥唐戸商店街内の「商品館」にも、みすゞと雅輔の資料があります。

